第3回 さわやか生涯青春! インタビュー 平成20年7月30日(水)

立教セカンドステージ大学の挑戦 学びの情熱尽きることなく ―

立教大学副総長 笠原

清志先生

対象にした生涯学習講座が乱立したに 団塊世代のお一人。ここ数年、団塊を 笠原清志立教大学副総長(60歳)は、

代の定年が2007年から始まるが、 居場所を見つけられない中高年の現状 に違和感を感じられてきた。団塊の世 定年退職後の生活は、在職時とは激

変する。ところが地域に出ようにも隣

近所の人達の顔さえ知らず、会社の話

もかかわらず、退職後に家庭や地域に

にも、大学が学びを用意すべきではな とっても夫が四六時中家にいる生活は を持ち出せば地域になじめない。妻に 者を育てるが、シニア生活に入る男女 大きな変化だ。大学は社会に巣立つ若

いただきました。 を与えている「立教セカンドステージ 大学」の挑戦を、インタビューさせて 日本の高齢社会に大きなインパクト

話なんですね。それでこの後どうする

ていないという、この問題に気が付き けで、そういう深刻さを社会が認識し

温泉旅行に行きたいとか、あるいは海

外旅行でループル美術館にでも行きた

ら奥さんに迷惑をかけたからのんびり

ても、彼らも当事者意識を持っていな

ところが、実際我々の先輩を見てい

してしか見ていない。

いわけです。つまり、定年退職をした

1 立教セカンドステージ大学 創設の趣旨・目的

された趣旨、一番のポイントを改めて お聞きかせください。 ある雑誌を読んでおりましたら、 立教セカンドステージ大学を創設 50

歳を過ぎると同窓会が増えると。僕、

定年退職がもうそろそろだね、という の話、やっぱり一番大きなテーマは の病気の話だとか、死んじゃった仲間 ろな同窓会に参加したりすると、同僚 なと思いました。50歳を過ぎていろい る。終わりが見えてくると、昔が懐か 次に人生の終わりがそろそろ見えてく 会や企業の中でも多少落ち着いてきて と思いました。50歳くらいになると社 50歳を過ぎていたのですが、なぜかな しくなる、それで同窓会が増えるのか

> ですね。 として考え出したのが50歳過ぎてから いろいろな問題点を我々の世代の問題 で初めて僕自身も定年退職をした後の かという話になります。そういった中

たのがひとつのきっかけですね。 はいけないんですよね。迷惑をかけて リタイヤしたら男は昔の職場に行って ないな、やっぱり社長もそうですが、 次に地域とも挨拶するぐらいで接点が どうも我が家に自分の居場所はないな た後どうなるのだろうと考えました。 報道されて、じゃあ自分はリタイヤし 塊の世代のリタイヤの問題がいろいろ マスコミなんかを見ているうちに、 した後にどうなるのかなぁと考え始め しまうし。そうするとじゃあリタイヤ ところが、今僕60歳で、いろいろな

7年問題』と言われていたわけです。 かけと、他方でどんどんどんどんマス どんリタイヤした人が集積していくわ 問題ではなくて、正確には『2007 めるのが2007年。だから【200 ヤの問題、この層が定年退職を迎え始 コミが取り上げる団塊の世代のリタイ 年後問題』です。2007年以降どん ところがよく考えてみると2007年

ところがこの僕自身の個人的な問い が2千万・3千万とすると、何十兆円 性としても30万人くらいがリタイヤさ 退職すると、約70万人以上、半分が女 ていない。つまり、この人たちが定年 この人たちを消費の対象としてしか見 ういうシニアの人たちを消費の対象と の金融資産が生まれて、これがどっち れる。そうするとその人たちの退職金 んなマスコミなんかを見ていますと、 に向かうかですとかそういう議論、こ T教大学 2007年問題を議論しているいろ TIT 世 11 世